

(広島県)若年層に対する献血推進事業(NO.1)

【目的】知事の呼びかけや、地元のまひろちゃんのお父さんの手記により、献血の大切さを身近に感じてもらうことで、献血離れ傾向がある10代・20代の若年層の献血を推進する。また、献血基準を下回り献血できなかった人に対し、献血に関する情報や健康維持に向けた食事に関する知識を普及することで、複数回献血や若者の献血への参加を促す。
これらのパンフレットをクリアファイルとセットにすることで、家庭に持ち帰った際、保護者の目にも触れ、さらに幅広い世代への啓発効果を期待する。

【内容】知事呼びかけメッセージ、まひろちゃんのお父さんの手記、血液ヘモグロビン量不足の方への栄養アドバイス
献血の使用状況、若年層の献血者状況、献血の基準と間隔、献血ルームの案内等を載せたパンフレット

【実施予定日(配布予定日)】平成27年1月配布予定

【対象者】県内の高校3年生他



【実施方法】県内各高等学校(県立, 市立, 私立, 特別支援学校)へ配布し, 関係機関へ周知する。

【効果】18歳から男女とも全ての種類の献血が可能であるため, 学校で配布することにより, ほぼすべての18歳に確実に行き渡るとともに, 幅広い世代への啓発効果も期待できる。
また, 献血の必要性, 将来の血液不足の状況を知ってもらい, 献血参加の促進を期待する。

【問題点・課題】配布直後に登校しなくなるので, 配布後の効果や実績を検証しにくい。
配布時期について再検討する必要がある。



(広島県)若年層に対する献血推進事業(NO.2)

【目的】年々深刻化している若年層の献血者減少対策として、将来の献血者育成と献血思想普及

【内容】県内の主に小学校4・5年生を対象に、広島県赤十字血液センターで3Dビデオによる血液・献血等についての学習と、献血バスで献血の疑似体験などを行う「なるほど献血」を夏休みを利用して開催。また、10代及び20代を中心とした若年層と医療従事者を旨とする者を対象に、血液の病気と献血の必要性、輸血用血液の使い方等のスライド学習や、輸血を必要とした患者さんの実話を通して学ぶDVD視聴等を行う「献血セミナー」を授業・参観日・部活動等の一環として随時実施。



【効果】「なるほど献血」参加者数518名(児童<幼児含>:313名, 保護者:205名)

参加者を対象としたアンケートでは、90%以上の参加児童から献血に対して肯定的な反応を得ることができている。また、献血の必要性についても理解ができており、将来的献血者の育成という効果はあった。あわせて同行している保護者からも、献血に対して理解が進んだ、必要性を強く感じたという反応が多く、実際に献血に協力する行動を起こした方もおられた。

「献血セミナー」セミナー後に献血を実施する学校において、参加者増加へつながっている。

例)広島工業大学専門学校

平成25年度 参加59名 献血者46名

平成26年度 参加76名 献血者65名

広島文化学園大学呉阿賀キャンパス 平成25年度 参加76名 献血者53名

平成26年度 参加85名 献血者56名



【今後の課題(又は今後の対応方針)】

「なるほど献血」については、現状の実施規模が適切と考えてはいるが、実施期間の延長や夏休み期間以外の開催を望む声がある。また、学習要領では小学6年生で血液について学習するので、対象を6年生まで広げることで将来的献血者の育成により一層寄与できるのではないかと考えている。将来的には、対応できるスタッフを増やすことで対応可能期間を延ばすべく、見学案内ボランティアを育成することを計画している。

「献血セミナー」については、毎年同じ学校でのセミナーが中心となっており、市内の中学・高校を中心に資料送付と電話でのアプローチをするも、学校のスケジュールと合わず、なかなか実施までに繋げていけないのが現状。校長会や県教育委員会の力を借りて案内をすると同時に、今後は学校に出向いてセミナーの案内をしていく。